



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月6日

上場取引所 東

上場会社名 アルコニックス株式会社

コード番号 3036 URL <http://www.alconix.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 正木 英逸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員財務部長 (氏名) 宮崎 泰

TEL 03-3596-7400

四半期報告書提出予定日 平成27年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	151,606	10.5	3,810	31.7	4,410	64.1	3,221	31.1
26年3月期第3四半期	137,245	6.4	2,892	4.9	2,687	1.3	2,457	75.4

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 3,992百万円 (△13.5%) 26年3月期第3四半期 4,615百万円 (178.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	252.77	251.58
26年3月期第3四半期	193.30	192.65

(注) 当社は平成26年8月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	90,516	24,946	26.9
26年3月期	85,664	21,368	24.3

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 24,368百万円 26年3月期 20,833百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	30.00	—	35.00	65.00
27年3月期	—	18.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は平成26年8月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため平成27年3月期(予想)の年間配当につきましては当該株式分割を考慮しております。また株式分割を考慮しない場合の平成27年3月期(予想)の年間配当は1株当たり72円に相当いたします。

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	201,000	9.4	4,120	18.2	4,950	37.5	3,500	11.3	273.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

・平成27年3月期(予想)の1株当たり当期純利益につきましては、株式分割を考慮した額を記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、[添付資料]4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期3Q	12,788,800 株	26年3月期	12,717,600 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

27年3月期3Q	413 株	26年3月期	370 株
----------	-------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期3Q	12,745,334 株	26年3月期3Q	12,712,126 株
----------	--------------	----------	--------------

当社は平成26年8月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため上記の株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出してあります。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国経済が民間需要を中心に回復を続ける一方、欧州経済は低迷、また中国経済も不動産投資や民間設備投資不振により減速いたしました。

我が国経済は、消費税増税の駆け込み需要の反動に底打ち感がみられるものの消費は低調に推移し、夏場の天候不順や輸出の伸び悩みもあり景気低迷が続きました。

当社グループを取り巻く非鉄金属業界においてはスマートフォン・タブレット端末向け需要が引続き拡大を続ける一方、自動車向けも北米等の海外需要増加を受けて底堅く推移いたしました。

このような経済環境のもと、当社グループの売上面においては、電子材料分野のスマートフォン・タブレット端末関連部材、環境関連部材、太陽光発電関連部材の他、アルミ・銅スクラップ、金属珪素、チタン・タングステン・モリブデン等のレアメタル、及び国内連結子会社が製造する半導体製造装置用部品等が増加いたしました。また、レアアースについては電池、磁石、触媒用途での自動車向け取扱いが増加いたしました。単価の下落により売上高は前年同期に比べ減少いたしました。一方、空調機器向け銅管、及び電池材料用ニッケル粉末等の取扱いが減少いたしました。

利益面では、グループ全体の売上増加に伴う収益増に加え、第1四半期連結会計期間にケイ・マック株式会社を持分法適用関連会社とし、負ののれん発生益を含む持分法による投資利益を営業外収益に計上したことにより経常利益は大幅な増加となりました。これにより四半期純利益についても大幅な増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高151,606百万円（前年同期比10.5%増加）、営業利益3,810百万円（同31.7%増加）、経常利益4,410百万円（同64.1%増加）、四半期純利益3,221百万円（同31.1%増加）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

・軽金属・銅製品事業

消費税増税の影響による国内住宅建材関係、空調関係資材の荷動きは停滞いたしました。自動車、航空機、及び半導体製造装置向け等の取扱いは堅調に推移いたしました。特に半導体製造装置、航空機等の堅調分野を主な需要家とする国内製造子会社の好業績が連結業績に大きく貢献いたしました。また本年4月に持分法適用関連会社となったケイ・マック株式会社の負ののれん発生益を含む持分法による投資利益を営業外収益に計上したことにより、セグメント利益は大幅な増加となりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は57,312百万円（前年同期比8.0%増加）、セグメント利益は2,699百万円（同145.3%増加）となりました。

・電子・機能材事業

スマートフォン・タブレット端末の関連部材は継続的な新機種投入により安定的に伸長しており、また環境関連部材、太陽光発電関連部材も円安効果もあったことから堅調に推移いたしました。またチタン・ニッケル製品の輸出取引も、欧州向けを中心に需要復調や為替効果により回復基調となりました。

一方、レアメタル・レアアースの分野においてはタングステン、モリブデンの取扱いが増加したものの、電池、磁石、触媒用途におけるレアアースの取扱いは、単価の下落により売上高は前年同期に比べ減少いたしました。なお、セグメント利益は外貨借入金の期末時換算に伴い、為替差損を計上したために前年同期比で減少となりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は59,195百万円（同11.0%増加）、セグメント利益は1,284百万円（同6.1%減少）となりました。

・非鉄原料事業

主たる需要先である国内自動車生産は、消費税増税以前の駆け込みもあり高水準を維持、また国内鉄鋼生産も堅調に推移したことから、当セグメントの取扱う自動車用輸入アルミ合金塊、鉄鋼用脱酸材、金属珪素、鉛地金、軽金属圧延用マグネシウムが堅調に推移いたしました。また、アルミ及び銅のリサイクル事業への進出も奏功し、アルミ・銅スクラップの取扱いが増加し連結業績に貢献いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は27,199百万円（同17.5%増加）、セグメント利益は283百万円（同314.6%増加）となりました。

・建設・産業資材事業

国内建設市場は、消費税増税前の駆け込み需要の反動、及び人手不足により新設住宅着工戸数が低迷しており、民間設備投資においても回復の兆しはあるものの足元の需要は弱く、建設産業資材の取扱いは全体として低調でありました。また急激な円安進行に伴う輸入品のコスト上昇により、バルク貯槽や素形材の輸入取引も低調でした。一方、円安メリットによりバルブ類の海外取引が増加し、銅合金管の輸出取引も好調に推移いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は10,846百万円（同6.7%増加）、セグメント利益は159百万円（同8.5%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態

a. 流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は71,050百万円であり、前連結会計年度末比4,714百万円の増加となりました。主な内訳は、たな卸資産の増加5,199百万円、受取手形及び売掛金の増加131百万円、及び現金及び預金の減少917百万円であります。

b. 固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は19,466百万円であり、前連結会計年度末比138百万円の増加となりました。主な内訳は、減価償却・のれん償却等に伴う有形・無形固定資産の減少331百万円、及び社債償還を上回る投資有価証券の増加による投資その他資産の増加469百万円であります。

c. 流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は53,457百万円であり、前連結会計年度末比3,270百万円の増加となりました。主な内訳は支払手形及び買掛金の減少157百万円、短期借入金の増加4,040百万円及び1年以内返済予定長期借入金の減少118百万円であります。

d. 固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は12,112百万円であり、前連結会計年度末比1,996百万円の減少となりました。主な内訳は流動負債への振替による長期借入金の減少1,638百万円、及び社債の減少300百万円であります。

e. 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は24,946百万円であり、前連結会計年度末比3,578百万円の増加となりました。主な内訳は新株予約権の行使に伴う資本金並びに資本準備金の増加がそれぞれ28百万円、利益剰余金の増加2,769百万円、上場株式の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加261百万円、及び為替換算調整勘定の増加410百万円であります。

②経営成績

a. 売上高

売上高の主な増加要因は、銅合金条、アルミ・銅スクラップ、半導体製造装置向け精密研削加工部品並びにめっき材料、金属珪素、及びチタン、タングステン、モリブデン等の取扱い増加であります。また主な減少要因は、銅管、電池材料用途のニッケル粉末、及び輸出向け黄銅棒の取扱い減少であります。

一方、レアアースの取扱いは自動車向け需要等に支えられ増加したものの、単価の下落により売上高は前年同期に比べ減少しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比10.5%増加の151,606百万円となりました。

b. 売上総利益

円安の進行等により仕入れコストが増加する一方、連結子会社における取引増加が寄与し当第3四半期連結累計期間における売上総利益は前年同期比6.3%増加の8,963百万円となりました。

c. 販売費及び一般管理費

貸倒引当金戻入と減価償却費の減少等により、当第3四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は前年同期比6.9%減少の5,152百万円となりました。

d. 営業利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業利益は前年同期比31.7%増加の3,810百万円となりました。

e. 営業外収益、営業外費用

ケイ・マック株式会社の負ののれん発生益を含む持分法による投資利益を928百万円計上したことにより、営業外収支(営業外収益－営業外費用)は599百万円の収入超となりました(前年同期は205百万円の費用超)

f. 経常利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における経常利益は前年同期比64.1%増加の4,410百万円となりました。

g. 特別利益、特別損失

固定資産売却益、新株予約権戻入益等の特別利益を27百万円計上した一方、投資有価証券評価損、固定資産除却損等の特別損失を18百万円計上いたしました。

h. 四半期純利益

税金等調整前四半期純利益4,419百万円から法人税等1,145百万円、連結子会社5社における少数株主利益52百万円を差引き、当第3四半期連結累計期間における四半期純利益は前年同期比31.1%増加の3,221百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点においては、平成26年11月6日の「平成27年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想を変更していません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

・税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,926	12,008
受取手形及び売掛金	35,668	35,800
商品及び製品	14,311	19,240
仕掛品	1,045	1,369
原材料及び貯蔵品	426	374
その他	2,422	2,421
貸倒引当金	△465	△163
流動資産合計	66,336	71,050
固定資産		
有形固定資産	6,365	6,305
無形固定資産		
のれん	2,736	2,607
その他	3,870	3,727
無形固定資産合計	6,607	6,334
投資その他の資産	6,355	6,825
固定資産合計	19,327	19,466
資産合計	85,664	90,516
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,138	27,981
短期借入金	14,961	19,002
1年内返済予定の長期借入金	3,169	3,051
1年内償還予定の社債	600	600
未払法人税等	834	614
賞与引当金	450	368
その他	2,032	1,840
流動負債合計	50,187	53,457
固定負債		
社債	1,200	900
長期借入金	9,982	8,343
役員退職慰労引当金	204	234
退職給付に係る負債	311	312
長期未払金	61	74
その他	2,348	2,247
固定負債合計	14,108	12,112
負債合計	64,296	65,570

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,835	2,863
資本剰余金	1,877	1,905
利益剰余金	12,952	15,721
自己株式	△0	△0
株主資本合計	17,664	20,490
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	304	565
繰延ヘッジ損益	26	64
為替換算調整勘定	2,837	3,248
その他の包括利益累計額合計	3,168	3,878
新株予約権	38	36
少数株主持分	495	541
純資産合計	21,368	24,946
負債純資産合計	85,664	90,516

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	137,245	151,606
売上原価	128,815	142,642
売上総利益	8,430	8,963
販売費及び一般管理費	5,537	5,152
営業利益	2,892	3,810
営業外収益		
受取利息	65	52
仕入割引	13	10
受取配当金	41	67
不動産賃貸収入	43	58
持分法による投資利益	114	928
その他	145	211
営業外収益合計	424	1,329
営業外費用		
支払利息	274	246
売上割引	8	9
為替差損	222	390
手形売却損	27	29
不動産賃貸原価	20	8
その他	76	44
営業外費用合計	630	729
経常利益	2,687	4,410
特別利益		
固定資産売却益	2	17
投資有価証券売却益	—	4
負ののれん発生益	839	—
助成金収入	3	3
その他	114	2
特別利益合計	959	27
特別損失		
投資有価証券評価損	25	17
関係会社整理損	40	—
その他	4	1
特別損失合計	71	18
税金等調整前四半期純利益	3,575	4,419
法人税等	1,066	1,145
少数株主損益調整前四半期純利益	2,508	3,273
少数株主利益	51	52
四半期純利益	2,457	3,221

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,508	3,273
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	339	251
繰延ヘッジ損益	63	40
為替換算調整勘定	1,440	347
持分法適用会社に対する持分相当額	262	79
その他の包括利益合計	2,106	718
四半期包括利益	4,615	3,992
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,553	3,931
少数株主に係る四半期包括利益	62	61

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	52,463	52,110	22,742	9,928	137,245
セグメント間の内部売上高又は振替高	595	1,209	398	239	2,443
計	53,059	53,320	23,141	10,168	139,689
セグメント利益	1,100	1,367	68	147	2,682

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,682
セグメント間取引消去	4
四半期連結損益計算書の経常利益	2,687

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「軽金属・銅製品」セグメントにおいて、大羽精研株式会社の全株式を取得し新たに連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては785百万円であります。

「非鉄原料」セグメントにおいて、アルミリサイクル株式会社より大阪アルミセンター事業を譲受けております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては53百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	56,677	57,258	27,030	10,639	151,606
セグメント間の内部売上高又は振替高	634	1,936	169	206	2,947
計	57,312	59,195	27,199	10,846	154,553
セグメント利益	2,699	1,284	283	159	4,426

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より一部の組織についてセグメント区分を変更しております。管理区分を見直したことにより、ALCONIX (THAILAND) LTD. 及びALCONIX LOGISTICS (THAILAND) LTD. は「軽金属・銅製品」から「建設・産業資材」に、ALCONIX HONGKONG CORP., LTD. は「建設・産業資材」から「電子・機能材」に変更しております。また、名古屋支店営業部原料チームは名古屋支店営業部名古屋営業課への統合により「非鉄原料」から「軽金属・銅製品」に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,426
セグメント間取引消去	△15
四半期連結損益計算書の経常利益	4,410